私がなぜ現在の科目を選んだか

「糖尿病・内分泌代謝内科」

信州大学医学部附属病院糖尿病・内分泌代謝内科
石　井　宏　明

私がこの専門を選んで早２年が経ちます。日々の診療，学会，研究などを通して糖尿病，内分泌疾患の奥深さを肌で感じています。

この科目を選んだきっかけは，単純にこの分野を学ぶことが好きだったからです。それは学生時代にさかのぼります。普段から勉強好きではなかった私は試験前になると詰め込んで勉強をしていました。たいていの科目は無理やり頭に詰め込んでいましたが，どういうわけかこの分野だけは違いました。特に内分泌領域は疾患の多くが系統だっており，勉強嫌いの私には飲み込みやすかったのかもしれません。糖尿病が同じ食生活でも発症する人としない人がいて環境要因だけではないことも知り，不思議とその魅力に惹かれました。また，代謝・内分泌分野は正常と異常の線引きが難しい分野でもあり，いわゆるグレーゾーンの領域を多く含んでいることも魅力の一つでした。患者の状況によっては同じ測定値が正常にも異常にもなり，局所的ではなく全身的にその患者を診なければならない分野です。そしてこれら疾患の多くは慢性疾患であり，診断がつけばその患者と長期にわたって付き合っていくことが必要で，その点も私には魅力的でした。おそらく私の中では，内科医はその患者と人生の一端を一緒に歩んでいくものだという思いがあるためでしょう。その思いを抱き始めていた学生時代に駒津光久先生（現当科教授）に声をかけて頂いたことが，進路決定の大きな出来事になりました。初期研修時代には様々な科をローテートして，他分野を専門にすることも少し考えました。しかし，結局は自分のやりたいことを素直に考えた時に浮かんだのがこの分野でした。

現在専門に進み２年が経過しますが，今でも新しい発見や経験があり，日々が新鮮で楽しいです。糖尿病，内分泌疾患は長野県内でも非常に多い疾患ですが，他県と比べて専門医がまだまだ少ない状況です。今後は自分自身の見識を深め，診療のみならず，後輩や周囲の人へ糖尿病・内分泌の魅力を伝えられるよう精進していきたいと思います。

（信大平19年卒）

私がなぜ現在の科目を選んだか

「画像医学」

信州大学医学部画像医学講座
加賀美　聡之介

学生時代の放射線科に対するイメージは「画像の読影ばかりしているんだろうな」というものでした。私は漠然と内科を将来の科にしようと考えており，２年間の初期研修を信州大学で可能な限り多くの科を回ろうと研修する科を決めていきました。放射線科に関しては，内科をやっていく上で画像に慣れておきたいから，といういい加減な理由で初期研修の２年目に1.5カ月だけ選択をしました。

各科を回る中で画像診断は臨床の大事な場面で診療の方向を決める大きな要因になっている，ということを感じました。特に癌の staging はどの科の研修でも画像診断が必須となっていました。また頭痛や腹痛，発熱の初期対応の中で，出血の有無，イレウスの有無，熱源精査というような理由で画像検査を依頼することがありましたが，撮影された画像はさっぱりわからず，レポート頼みということがしばしばあり，「専門外の訴えが来た時ある程度画像が読めないと困る」と思うようになる中で，放射線科の研修期間が始まりました。

学生時代と違い，各科を回ってから研修する科は特別印象が変わりますが放射線科はその最たるものでした。今まではただの読影だったものが「この読影で各科の診療の方向が変わることがあるんだ」と重いものになりましたし，読影自体も CT，MRI，エコー，血管造影等様々なモダリティを駆使することで論理的に診断をつけていく諸先生方の姿を見て，「これはすごい」と思うようになりました。それまでまったく放射線科への進路は考えていなかったのですが，内科を専攻するより放射線科を専攻する方が自分にとっては面白いかなと思うようになり選択しました。

今は入局２年目ですが，最近では放射線治療を研修する期間がありこちらも非常に面白く，治療専門医という選択も考えるようになっています。診断，治療どちらの領域も奥深く，勉強することが山ほどありますが，一つ一つ日々の精進を重ねていこうと思っています。

（信大平20年卒）